

令和5年度 第1回 碧南市図書館協議会 会議録

1 日時

令和5年7月5日（水）午前10時～午前11時30分

2 場所

碧南市民図書館2階 会議室

3 出席者及び欠席者

(1) 出席委員

宮本美枝子、浅井久夫、角谷竹虎、加藤智子、中原大輔、蛭川洋一、小島逸男、
松崎三津江、岩瀬亜美

(2) 欠席委員 三嶋晴子

(3) 事務局職員

教育長：生田弘幸、教育部長：岡崎康浩、生涯学習課長：鈴木善三、
市民図書館館長：大橋幹広、南部分館長：関 由香、
中部分館長：長谷川有里、市民図書館副館長：長田和子

4 傍聴者

0名

5 協議会内容

(1) 教育長あいさつ

(2) 会長あいさつ

(3) 自己紹介

(4) 議題

- ① 令和4年度図書館の事業実績について
- ② 令和5年度図書館の事業計画及び関係予算について

(5) その他

6 会議内容（議題）

【事務局】

それでは、令和4年度の実績報告をさせていただきます。冊子資料『碧南市の図書館 2023』の6ページをご覧ください。こちらの「令和4年度 業務実績の概要」を基にご報告いたします。

まず「(1) 図書館資料の収集」として「ア 図書」と「イ 視聴覚資料」についてご報告いたします。令和4年度に受け入れた図書資料は、購入によるものが9,198冊、寄贈などの購入以外によるものが1,052冊の、合計11,250冊ございました。これに対して、除籍したものが7,833冊で、年度末の図書の所蔵数は545,261冊となり、前年度対比0.4%の増加となりました。

続きまして、視聴覚資料については、購入によるものが 236 点、購入以外によるものが、12 点の計 248 点ありました。これに対して除籍したものが 155 点で、年度末の所蔵数は 19,274 点となりました。前年度対比でみると、0.5%の増加となります。

次に逐次刊行物ですが、令和 4 年度は新聞 11 紙、雑誌 213 タイトルを受入れました。なお 23 ページから受入れ雑誌の一覧が掲載されておりますが、これは令和 4 年度ではなく、今年度受入している雑誌タイトルとなりますのでご注意ください。また、昨年度には、以前より検討しておりました、雑誌スポンサー制度の導入を開始いたしました。現在、スポンサーは 1 件のみとなっておりますが、今後も P R をしながら、募集をしていきたいと考えております。

続きまして電子図書ですが、令和 4 年度は 28 タイトルを受入いたしました。これは「広報へきなん」を電子化したものです。電子図書は、一部の資料を除き、紙の資料のように一度購入したらずっと利用できるというのではなく、購入してから 2 年間、または貸出回数が 52 回まで利用可能、というような期限付きのライセンスを保有する形になっております。

電子図書を導入した令和 3 年度に購入した資料が今年度の半ばまで利用できるため、令和 4 年度は新規タイトルの購入をしておりません。新規受け入れタイトルが 28 点にとどまっている理由でございます。今年度からは、毎年新規タイトルを順次購入してまいります。今年もすでにいくつかのタイトルが入荷しておりますので、ぜひ皆様にもご利用いただけたらと思っております。

続きまして、「(2) 図書館の利用に関する状況」についてご説明いたします。まず「ア 登録者数」につきましては、49,411 人となりました。登録者のうち、碧南市民は 33,841 人で、人口 (72,459 人) の 46.7%の方が、図書館の利用者カードを持っていることとなります。

また、入館者につきましては、全館の入館者は延べ 203,371 人で、前年度対比 3.3%の増加となりました。コロナ以前の人数にはまだ届きませんが、少しずつ利用者が戻ってきている状況でございます。

次に「イ 利用状況」です。貸出利用者数は、延べ 130,959 人で、前年度対比 2.2%の増加となりました。また、市内の幼稚園・保育園・小中学校などへの団体貸出は 199 の団体に貸出を行い、その貸出冊数は延べ 42,845 冊でした。これは、前年度より、1,000 冊程度の増となっております。

資料の貸出点数は 500,727 点で、前年度対比 0.2%の減少となりました。入館者数や貸出利用者数は伸びておりますが、貸出点数はわずかに減少しているという状況でございます。これというような明確な理由は不明ですが、今後の利用状況を確認しながら探っていきたいと思っております。

次に令和 4 年度の行事について簡単にご説明いたします。資料の 34 ページをお開きください。

「12 図書館事業実績」となっております。こちらには、各館ごとの行事の実績一覧を掲載

しております。

図書館の事業は、おはなし会をはじめとした様々な講座などを通じて、市民の知的好奇心を刺激し、おはなしの世界や、読書活動などへつなげることを目的としています。

令和4年度では、年度末ごろからおはなし会の定員を増やすなど、コロナの状況に合わせて規制の見直しを行いながら、予定していたほとんどの事業を開催することができました。その中からいくつかご紹介させていただきます。

本館では、9月に「図書館講座 記憶の中の碧南方言（ことば）」を開催しました。これは碧南市在住の大学教授である石川文也氏に講師となっただき、碧南のことばについて、ご自身の実体験を交えてお話いただきました。参加者はご年配の方が多かったのですが、小学1年生の女の子から参加したいという申し出があり、お父さんと一緒に参加してくださいました。クイズなどを交えながらの楽しいお話で、さらに地元の言葉という親しみのあるテーマであったためか、何度か笑いも起こるような内容で、大変ご好評をいただきました。

また、2月には、コロナのため2度ほど中止となっていた、碧南の図書館友の会が主催する「リサイクル本バザー」を開催することができました。

南部分館では、夏休み行事のひとつとして、近年世界的な課題となっている「SDGs」をテーマとした「クイズで学ぼう SDGs」を行い、子どもたちが楽しみながら「SDGs」を知ることができるようなイベントとなりました。

中部分館では、6月の「こどもとしょかんまつり」で「やさいのおはなし会と造形遊び」を開催しました。これは他部署とのコラボ企画となっており、農業水産課のアドバイザーによる野菜に関する紙芝居を楽しんだあと、美術館職員の指導のもとで、子どもたちが手形でアート作品を作る、というもので、手の形で野菜を形作るお子さんもあり、楽しいイベントとなりました。

本館と分館共通のものとしては、コロナのためここ3年の間中止となっていた、「子ども1日司書」を開催することができました。こちらは、小学校4年生から6年生を対象とした行事となっております。

また、前回の協議会の中でも話題に出ておりましたが、中学生の職場体験についても、2年間中止となっていました。昨年度は実施することができ、子どもたちに図書館の仕事について触れていただく機会となりました。

今年の5月にコロナが5類へと移行しておりますが、図書館といたしましては、引き続き、状況に合わせた安全対策を取りながら、幅広い年齢層が楽しめる事業を今後とも開催していきたいと思っております。

以上で令和4年度の実績報告を終わります。

【会 長】

ありがとうございました。いまの事業実績につきまして、質問等がありましたらお願いし

ます。また後からの質問でも結構ですので、次の議題に行きたいと思います。次は「令和5年度図書館の事業計画及び関係予算について」をお願いします。

【事務局】

「令和5年度図書館の事業計画」についてご説明します。

図書館は多くの事業を開催しております。一覧を見て「結構たくさんあるな」と思われた方もおられるかと思います。

図書館は、来館するきっかけづくりのひとつとして行事を行っています。一部の講座では講師をお呼びしていますが、ほぼ、ボランティアや図書館の職員の手作りで行っています。行事を行うと、参加したお子さんが本を借りていくという姿が多くみられます。

今年度の事業予定についてですが、資料の3ページから7ページの方に記載をしております。本館につきましては、開館30周年を迎えるため、記念事業をいくつか行う予定です。例えば30年間のベストリーダー「図書館のプラチナ本」の展示、夏休み期間には「図書館検定」、おはなし会スペシャルとして「消防士さんとおはなし会」を行います。10月には「防犯についての展示と講座」、11月には図書館講座「徳川家康と碧南市」等を開催する予定です。南部分館、中部分館に関しましては、ほぼ例年通りですが、子どもたちが「またか」と思わないように内容をいろいろ工夫していきます。以上で「令和5年度の図書館の事業計画」の説明を終わります。

【事務局】

続きまして「令和5年度の予算」について説明します。『碧南市の図書館』14ページをお開き下さい。こちらに記載のある資料購入費を中心に説明させていただきます。

「図書館費の構成」の表のうち、「13 使用料及び賃借料」に、電子図書購入費280万円が新たに計上されています。先ほど事業実績の方で申し上げた通り、今年度より新しい電子図書を購入するための予算でございます。その他、定期刊行物、雑誌や新聞を除いた紙の資料につきましては、「17 備品購入費」の項目にあります「資料購入費」で計上されています。こちらにつきましては、全館で44万円の増となっています。新聞・雑誌、定期刊行物につきましては「10 消耗品費」の項目の「新聞、雑誌、追録等」と記載のあるところが該当しており、全館で17万円の増となっています。大変簡単ではありますが、今年度の予算についての説明を終わります。

【会 長】

予算及び事業計画等につきましてご説明がありましたが、ご質問がありましたら出してください。どんな小さなことでもよろしいですが。

では、私の方から質問していいですか？

いま、予算でいろいろ工夫されているわけですが、17、8年前は「漫画は図書ではない」というイメージで、学校の図書室も漫画は一切置かない、朝の10分間読書でも「漫画以外のものを読みましょう」といったことを一生懸命守ってきたわけですが、いまでは世界的に日本の漫画を通して啓発されたりして、そこからいろんな文化が世界に発信されているようです。

そこで、この図書館では漫画というものに何パーセントくらい予算が組まれているのでしょうか。それとも除外されていく方向でしょうか。

【事務局】

漫画だけという予算は組んでおらず、あくまで図書としての予算を組んでおります。そこに漫画も含まれるということになりますので、漫画だけという予算の組み方はしていません。

14ページの予算の表で言いますと、「資料購入費」のうち「図書購入」という予算が該当しております。

【事務局】

ひとつご連絡です。前回の図書館協議会で「おもちゃのリストがホームページ上で検索できないか」というご要望がありました。

現在、図書館の方で、機械上で調べるためのおもちゃのデータを整理しております。その作業が済んだ後に、ホームページ上にリストアップさせていただいて、「どんなおもちゃがあるのか」あるいは、「小さい子が口に入れても危なくないおもちゃはどれか」などのリストとして見ていただけるようにしたいと考えています。試行錯誤しながらの作業となりますので、もうしばらくお時間をいただきたいですが、ただいま作業中であるということでご報告させていただきます。

【会 長】

ありがとうございます。まだ少し時間に余裕がありますが、議事としてはこれで終わりにして、事務局にお渡しします。ありがとうございました。

【事務局】

ありがとうございます。次回、令和5年度第2回図書館協議会は、令和6年3月の上旬を予定しております。その際は「碧南の図書館サービス計画第2次」の計画の進捗の状況についてご報告させていただく予定になっておりますので、よろしくお願いいたします。

【委員A】

先ほど会長の方からお話が合った漫画の話ではないですが、リサイクル本バザーを開催した時のお話をします。リサイクル本バザーは、市民からの提供本受付では、漫画は受けない

ということにはなっていますが、なかには歴史だとかいろいろなことが描かれているものもありますので、それは受けつけました。そういった本はすぐに売れてしまいます。

また、リサイクル本バザーの特徴ですが、実は私と同じくらいの年代の人たちが、終活じゃないですが、30年前くらいに、百科事典を何十万円もかけて、本棚いっぱいにしたやつを、台車でドーンと持ってこられます。みなさん、何十万円もしたやつを簡単に捨てるわけにはいけないので持ってみえる。その他にも美術全集の大型本を何冊も持ってこられる。我々はそれをリサイクル本として100円で売っているものだから、「これ100円でいいの」と、年配の方に喜ばれます。会長がおっしゃられるように、時代が変わってくると、終活ではないが、年寄りにはみんな大きい本を処分せざるを得ないということがあります。

また、ある方がもと小学校の校長先生の書斎をお孫さんの部屋にするために片付けると、トラック1台分の本が出たそうですが、安城市や我々のところでも受け入れようがなくて、結局ほとんど焼却されたのではないかと思います。それしか処分のしようがないと思います。

私はいま、高浜の郷土資料館で何人かの方の資料の整理をしています。5年くらいかけて、ひとり分の整理ができるくらいで、このあたりが今後、図書館の中で大きな動きになってくるのではないかと考えています。

【委員B】

よそで聞いたお話で、自分で確かめてないので申し訳ないですが、図書資料の購入については利用者の方がリクエストすることができると聞いています。そのリクエストに関してルールというか、どんな決まりになっているのでしょうか。

【事務局】

図書のリクエストについては、市内在住・在学・在勤の方を対象として受付けています。ただし、CDやDVDといったAV資料や、雑誌のリクエストはお断りしています。図書であっても、学習参考書やゲームの攻略本などはお断りすることもあります。

また、リクエストしていただいた場合でも、その本が絶版や品切れのため入手できないケースもあります。このような場合は、相互貸借というサービスを使い、県内や提携している県外の図書館で所蔵している館を探し、お借りできるものであれば取り寄せして、できる限り提供させていただくようにしています。

【委員B】

私が聞いた話では、高浜の方が碧南の図書館でリクエストしたら、断られたということでした。私自身、どのようなルールか知らなかったのも、そういったことであれば当然の対応だと思うのですが、そういう理解でよかったですか。

【事務局】

はい。高浜の方であれば、碧南市に在勤か在学あれば受付ができるのですが、そうでない場合はお断りさせていただいているということになります。

【委員B】

わかりました。

【部 長】

現在、高浜市では、いままでの図書館を閉館して、いきいき広場と美術館の2か所に移動させるという作業しているところで、7月22日から再オープンするということです。そういったことから、碧南市の図書館に高浜市の方がよくおみえになるということです。そういう中で、リクエストもされたケースもあったようですが、先ほど申しましたとおりルールもありますので、そのことは申し訳ありませんとお断りをしたということです。いま市外の方で利用者カードを作れる範囲はどうなっていますか。

【事務局】

碧南市・高浜市・安城市・刈谷市・知立市・西尾市・半田市の7市に、在住・在勤・在学の方が、碧南市の利用者カードを作ることができます。

【部 長】

そういった状況の中で、高浜市の方が多く来ていただいているということです。

【教育長】

コロナ禍もちよっと落ち着いたかと思ったら、沖縄でまた第9波かというような状況ですが、「音楽と朗読の集い」という行事が良い、という話を何人かから聞きました。

【委員A】

コロナ前には、図書館2階の会場いっぱいの220人ほど入れていましたが、今年は120人ほどにしようと考えています。

【教育長】

こういうのは良いなと思うことの例ですが、水族館の大水槽の前で、中学生の吹奏楽を少人数で演奏して、大変人気があって、たくさんの方が見にみえている。魚と音楽は合うというか、見栄えもよくそんなことをやっています。また、市民病院のホールで、患者さんの前で演奏するようなこともやっています。図書館も前から音楽を取り入れたイベントをやっ

みえて、昨年の演奏者は地元の熊谷祥子さんと加藤里奈さんだった。よそで活躍されている方もみえるが、こちらのおふたりは大体地元におられる。市内5つの中学校の生徒を2～5人くらいでも交代で使ってもらいと子どもの発表の場にもなる。部活動の地域移行ということで、文化会館に集めて練習したり、予算化して専門家を呼んで子どもたちを教えるということをはじめている。学校の枠を超えて、「誰かやってくれないか」ということになれば、中学生でもある程度の演奏はできます。ちょっと変わった趣向ということで、バイオリンやピアノ以外の、フルートとかクラリネットとかサックスとか、そぐうものがあれば、子どもたちの発表の場にもなるという気がします。

【事務局】

ありがとうございます。せっかく少しお話が出ましたので、「音楽と朗読のつどい」についてPRさせていただきます。コロナ対策として、2回ほど芸術文化ホールに会場を移して開催しましたが、今年度は久しぶりに閉館後の図書館でいたします。

コロナ前は七夕の時期に行っていましたが、今年度は9月の末に決定しておりまして、先ほど申し上げたように、定員を120人程度ということで、人数を半分くらいに絞り、ピアノ演奏とお話を楽しむという内容で開催いたします。皆さまもご都合がつけましたら、ぜひご参加いただけたらと思います。

【教育長】

今年はどなたが演奏者として出演されますか？

【委員A】

日比亮太さんという若いセミプロの方です。ピアノ教師をやりながら、子どもたちを対象とした演奏会もやってみえる方です。

【事務局】

それではちょうどお時間となりました。最後バタバタしましたが、これで本日の図書館協議会の方終わらせていただきます。皆様お忙しい中ご参加いただきましてありがとうございました。